

ブラジルバクにおける繁殖に向けた取り組み

○永峰令子，松元由貴，河野めぐみ
伊藤綾夏，前谷史恵
(鹿児島市平川動物公園)

当園では，ブラジルバク 3 (雄 2,雌 1)頭を飼育しており，2013 年より 1 組のペアを形成している．雌雄とも繁殖経験はあるもののこのペア間ではなく，雄 22 歳、雌 23 歳という年齢からも繁殖が急がれる．

そこで，2016 年 6 月より週 1 回雌個体の採血を行い，血中プロジェステロンの動態を調べ，発情が周期的にきているかどうかをみた．血中プロジェステロンは，大体 1 ヶ月の周期で低値を示し，雄による追尾などの繁殖行動もその期間に認められた．

また、バクでは，雌の外見的な発情徴候があまりみられず，雄の行動によって発情の有無を判断することが多いが，個体によっては陰部腫脹や粘液の漏出などの報告がある．当園の雌においても発情と関連して陰部が腫脹しているかどうかを検証するため，陰部の縦と横の長さを 1 年間計測した．その結果，どちらも発情時と非発情時では大きな差はなく，この個体においては発情の指標とはならないことが分かった．

2017 年 6 月からは，交尾がうまく成立していないことも繁殖に至らない原因と思われたため，マウント行動時に担当者がメスの横に立って補助し，確実に挿入させる交尾補助を計 15 回実施した．これらの取り組みについて紹介する．